

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームてらやま 一丁目
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市吉野町6581-2
記入者名 (管理者)	豊留 栄子
記入日	平成 21年 2月 16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入所者がその人らしく普通の生活が送れ、笑顔を見ることが出来る事を理念とし、新しい仲間と共に安心して暮らせるよう支えていく	○	事業所独自の理念を作り、その人らしく暮らし続けることを支えていきたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで「理念5のS」を唱和し、互いの認識を高める努力をしている。スタッフは日々の介護、申し送り、ケース会議等でいろいろな問題点を取り上げ、管理者に相談し、実践に向けて取り組んでいる(独自の理念も)		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内の見やすい所にかかげ、入所者、ご家族、訪問の方々に理解していただけるようにしている		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけ、近所の方々と挨拶し合ったりお話ししたりしている	○	町内会等の行事を事前に把握し、参加できる事はし、交流の場を広げたい。催し物の案内をスタッフにより配っていく
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くのグループホームのもちつき大会に呼ばれ参加している。又、地域の夏祭りにも入居者と参加している	○	当ホームも地域とのふれあいの場として行事を計画している(3月1日)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を民生委員等を交えて行う時、管理者より高齢者(認知症)について分かり易く伝わるようにしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえスタッフと共に改善に向けて具体的に実践につなげるようにしている	○	前回外部評価の結果の資料を読んで今後もっと質を高める努力をしていく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加者から意見を取り入れて、いろんな角度からのサービス向上を目指している	○	今後は開催が確実に行われていくので、会議の内容を細かく検討し、ひとつひとつ実践していく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護者が7名入居されており福祉課の訪問があったり、又福祉課に行き新しい保護の方の情報を入れたりしている。入退院状況の連絡を電話したりしている	○	今後も継続して関わりを深め、サービスの向上に努めたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ必要と思われる入居者はいないが、市役所よりパンフレットを見て分からない所は再び説明していただいている	○	ケース会議等で話し合いの場を持ち、スタッフの質の向上に努めていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時には身体チェックをする。高齢者虐待防止委員会を設け、委員会を開催。内部研修にて全スタッフに理解を深めてもらっている	○	継続して委員会を頭に勉強会をしていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項に沿って説明した後、質問等に理解していただけるように詳しく説明している 又医療連携体制・苦情相談窓口についての説明も納得していただいている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの不満・苦情は直接スタッフが伺い管理者と相談、対応している 訴えの出来ない入居者もその方の言動を把握し対応している	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に近況報告書を送付、又請求書送付時に管理者からの一言添え、写真なども送付している 又、必要に応じて電話で現在の状態をお知らせしたりしている	○ 前年よりスタッフによるホームだよりを発行送付しており、より多くの事柄をお届けできると思う 又3月1日に家族会も開催予定
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見窓口として1階玄関にテーブルとイスを置き、気付いたことを記入していただけるように気づき箱を設置している	○ 気づき箱がほとんど利用されていないので、再検討の必要あり
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体ケース会議をし、月2回ケース会議を行い、意見の交換場としている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤、夜勤とのローテーションにて対応している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニット固定化しているが年1回それぞれのユニットの入居者を知る上での移動をしている	○ スタッフが各ユニットの利用者と馴染みの関係がつかれるよう挨拶や合同のレクリエーションを行い、スタッフの移動があった時にも入居者が早く馴染めるようにしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケース会議、職員会議には参加し、入職時管理者、看護師よりミーティングを行い、仕事への理解を深めている	○ 外部の研修等の情報も多くなり、スタッフのローテーションでその都度受講している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームに招待され、もちつき等の交流をしたり、同業者の訪問見学も受け入れている	○ 同業者と交流し、勉強する機会を設け、サービスの質の向上をしたい ※3月1日の春まつりに近くのグループホームに声かけし、参加を促したい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休日の確保はもちろんの事、休憩時間を作りティータイムとしている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	採用時、オリエンテーションを行う時に研修は受けているが不十分である	○ 今まで以上に外部での研修には勤務調整をし、出席していただくようにする
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が何に困っているか、何を相談したがっているのかじっくり聞く 又家族にも協力が必要な時は相談協力してもらう	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が気軽に話ができるよう面会時等、声をかけるようにしている	○ 傾聴した上で、ここでの生活の不安が軽減できるよう努めていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況をお聞きし、本人が受けられるサービス、他の施設等の紹介をしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に何度でも見学に来ていただいたり、お電話したりして安心していただけるようにしている 又1日2日の体験入所も行っている 本人が当ホームに合うかどうか宿泊してもらうこともできる		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフと共に掃除したり、花の水やり、野菜の植え付け収穫時を教えていただいたりしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活を家族に伝えたり、意見を聞いたりして本人と共に支えあうようにしているが遠方だったりして不十分		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が遠方だったり、あまり面会もない方もいたりしているので本人と家族の想いを数多く共有できるよう行事への参加を促すようにする		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のこれまでの生活習慣を尊重しつつも馴染みの場所や馴染みの人々が少なくなっている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のトラブルが起きないように気配りし、均一に声かけコミュニケーションがうまくとれるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	数多くはいらっしやらないが年賀状、暑中見舞いで挨拶を行い、いつでも立ち寄ってくださるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で声かけ把握している 特別にお話したがっている時等は居室に伺いを聞いて、その人の想いを把握している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれにコミュニケーションをとりながら、その方の家族等からのお話を聞きながら把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方は個人台帳に記し、心身状態はバイタルチェックを見逃さないようにし、申し送り等でスタッフと情報を共有し、入居者の1日の過ごし方を把握するようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時や電話等で日頃の本人の想いや様子に関わりの中で見過ごさないようにし、介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族にも電話でお話したり、スタッフ間ではケース会議等での意見を出し合い新たな計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や個々に気づきノートを設け記入し、情報を共有し、実践し、介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事は個々のペースに合わせ、入浴もできるだけ本人の望む時間に、家族との外出、スタッフと外食に出たり、病院受診もホームの車で送迎支援を行い、面会時間も柔軟な支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じて町内会長、民生委員、地域包括センター等との意見交換ができる		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の要望で、2階で1名訪問リハビリサービスを利用している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席していただき情報を得ている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、本人家族の意向を聞いている 週1回定期往診、1ヶ月1回通院診察、入居者の状態に応じ、いつでも対応できるようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今の段階では、状態変化等家族にはまめに電話連絡し、協力病院からもまめに指示いただけるような体制作りをし、又家族には寄り添っていただける時間を設け、納得していただけるようにしていきたい</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者には敬語を使うようにしている 汚染、失禁等の場合は居室で着衣交換等、大声での声かけ等しないようにしている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者と関わりを持ちながら行動していただける時、事前に本人に意向を聞き、選べるような声かけをしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の性格、リズム、身体状況を把握しスタッフ側の決まり事を無理強いしない様に心がけている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容はこちら側にまかされている 散髪時はできるだけ望む髪形にしている 馴染みの美容院を定期的に利用される方もいらっしゃる	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	不用意な声かけはしないようにしている 食べこぼしも気にせず、食べられるよう声かけに努めている 又できる方は食器類は台所まで持ってきていただけるようにしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる方が何名かいらっしゃるが本人が欲しい時はスタッフ介助の元、吸っていただいている(タバコ、ライターはスタッフが管理)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄状態に合わせて使用するパット類を変えている 又就寝前、トイレへの促しをする		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回が原則としているが、その日その人の体調や汚染状態により入浴を促している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後は居室で横になるよう声かけし、日中は散歩したりと活動量を増やしたりしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の床拭き掃除(自分の居室、ホール)をスタッフと共同に していただき、感謝の声かけをしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどお金は持たれていないが、預かっている方でスタッフと買い物に行かれる事もあり自分で品物を選び支払っている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭が広いので自由に散歩はできている 時々天気の良い日はドライブで戸外に出かけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の許可をとり墓参りにスタッフと行ったりする方もいる 自宅に帰られた時、家族と温泉に行かれる方もいる 家族との外食を楽しまれる方もいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階に公衆電話があり、誰でも使用できるようにしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等も決めていないので、いつでも家族や知人が尋ねて下さるよう配慮している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、マニュアルを作りスタッフはこれを把握し、日々気づいたことがあれば話し合いの場を設けている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はないが2ステップセンサーになっているので、入居者が外出したい時は一緒に行っている	○	家族には入所時に説明し同意を得ている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤者は入居者の所在様子を把握し、夜間は夜勤者が巡視し、所在様子を把握し安全に配慮している	○	料理しながらでも確認できるようにオープンキッチンである
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、薬類、台所(刃物)にはすべて鍵をかけるよう徹底している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急、災難、無断外出等はマニュアルや訓練で学んでいる事故、ヒヤリハットの報告書を作成し、事故調査委員会で話し合い全員に回覧し、再発防止に心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルが作成してあり、常にスタッフの見れる所に保管し、日常的に確認出来る様してある	○	ケース会議等で救急対応、手当ての訓練を行うよう努めたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を行い入居者、全スタッフが参加 消防署の協力も頂いている非常時のサイレン設置し試験済みであり近所にも協力得ている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	心身の変化等はその都度家族への電話での現状の説明をしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排泄回数、食事量、水分チェック(月1回)を行い記録し、異常の早期発見に努めている 変化時は個人台帳に記録し残している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容がいつでも確認できるようになっている 往診時に内服変更があれば申し送りノートに記録し、申し送る形としている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックをし、乳製品を提供し、散歩を促したりしている90歳以上の方々には腹部マッサージをしたりしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はうがい、歯磨きではスタッフがついて声かけし行っている 義歯の調整で家族の了解を得て歯科往診をしていただいたりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分チェック(月1回)の状態把握に努め、又メニューは管理栄養士が(同系列の施設)たてた物を使用している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、スタッフは読んで確認している 又インフルエンザは全スタッフが予防接種をし対応している このような感染症が出た場合は、皆で再確認している	○	手洗い、うがいはスタッフ、入居者は必ず行っている タオルも個人別とし、毎日手すり、イス、ソファ、トイレ等アルコール消毒している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品は事前発注を業者にしている 台所、調理用具等の使用後は消毒乾燥している スタッフは手洗い励行である		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	草花、野菜を季節に応じ植えて家庭的な環境にしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、物品、装飾を家庭的にしてある トイレは認知の方の目線で分かるように配慮しており、自然の豊かさ、鳥のさえずり、空気、景色と抜群である		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの畳、ソファがゆっくりし、いつでも気軽に行き来するようになっている 外にはベンチが6つもあり日光浴の場となっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具、テレビ等はすべて入居者の使い慣れたもの の持込みである		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時は窓の開閉 フロア冷房28度、暖房25度以下に設定 居室は個人に合わすが暖房22～23度前後に設定するが時に切ったりして調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居者の身体機能に合わせ便座(温)手すりを取り付けられ、自立した生活できるように工夫してある		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の居室は表札が掲げてあり、それぞれ柄違いののれんがつけてある 居室の壁紙が各居室毎に変えてある		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	物干し場、園芸、水まき、草取り等入居者が楽しめるようになっている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム独自の理念を基に、日々の生活の向上を目指し、ケース会議や外部研修を今まで以上に取り入れ、スタッフのケアの質が向上するよう努力していきたい

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームてらやま 二丁目
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市吉野町6581-2
記入者名 (管理者)	豊留 栄子
記入日	平成 21年 2月 16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り、入所者の生活を安全に支えていける様、努めている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り前にスタッフ一同で唱和し、確認した理念の実践に努めている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内の見やすい場所にかかげ、入居者・家族・訪問の方々にわかっていただけるようにしている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者とスタッフとの近所への散歩時、又は出勤時、バス停での出会い時等近隣の方々への挨拶は率先して努め、又庭先での季節ごとの花の話もはずむこともよくある		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り、もちつき、盆踊り等に参加し、招待もあり入居者共に出来るだけ交流するよう計画している	○	当ホームでも地域の方々とのふれあいの場として行事を計画している(3月1日)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の民生委員、運営推進委員会の方々との話し合いの場を持ち、同系列の施設と共にホームも台風時、災害時、近隣の高齢者の方々への支援に役立てていただくよう伝えている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己及び外部評価項目を個々のスタッフで熟読理解し、改善実行につなげ成果が表れるよう努めている	○	家族や当ホームの関係者の方々が誰でも見れるようにファイルし、目の届く所へ置くようにしている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で参加者からの意見を取り入れ、色々な角度からみたサービスの向上に取り組んでいる	○	地域、家族、在宅サービス施設(居宅、包括)との連携にも役立っている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所、支所と入居者、家族間の連絡相談の橋渡しになり、又不在者投票等に出かけられるよう支援している	○	ケアプラン提出時や所用の際は、担当者との会話する機会を持ち、意見交換に取り組んでいる
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利、擁護、成年後見制度の説明書・パンフレット等の閲覧をスタッフ間でしている 機会あるごとに会議等で取り上げている		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての委員会を定期的に関き勉強すると共に外泊前後及び入所直後の身体確認を本人家族の理解の上でさせていただくこともある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	ホームだよりの発送により個々の状態報告や暮らしぶりがよりわかりやすくなってきている(写真等)
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	意見箱を玄関にもうけて、誰でも記入し箱に入れていただける様にしている
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に管理者、看護師よりオリエンテーションを行い必要に応じて研修期間を設け実践と理解をしていただく 内外の研修参加を重ねて能力を高めていけるよう努めている	○	徐々に外への研修参加も行えてきている 各スタッフのスキルアップにも努めていきたいと思う
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問や見学も受け入れ他のグループホームへの行事参加もさせていただいている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	心身のくつろぎタイムを昼食後の時間にとっている	○	職員一人一人個別に話し合いの場を設け、少しでもストレスを軽減出来るようにしたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの経験や技術を生かし、働けるように、又スタッフ各自に応じた声かけ職務を与えて各自がいきいき働けるように心がけている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所者のお話を十分に聞き困っている事の解決を図る 入居初期にはスタッフ一同濃厚なサービスに努め、不安を和らげられるように努める		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約時又は訪問時に不安や要望今までの入居者との関わりを十分傾聴する事で家族の努力を受け止めるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談見学に見えた場合、本人の現在の状態、家族の状態を聞いた上で適切な支援と見極め、他のサービスの紹介及びアドバイス出来るよう努める		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者希望の方や家族の見学面談等又は体験入所も可能で、納得安心されるよう心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が過去に培った技能や体験談等を通して、それ等が現在に役立てるよう引き続き支援し、喜びを共にするように努めている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態説明を家族へ伝えると共に支援参加、行事参加により本人と一緒に支えている実感に結び付けられるよう努めている	○	行事参加への呼びかけや近況報告で接する機会を多くもちながら信頼関係を築くようにしている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに入所されたことで本人も家族も良い関係が続くようスタッフの声かけ等でサポートしている(家族、本人両方からの話の傾聴等)	○	行事等入居の方々の家族にも出来るだけ参加していただき、踊り、歌、ゲーム等を一緒に楽しみ、より良い関係を作れるように支援していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話等希望に応じている	○	毎夜家族へ電話をされる方等その人個人のつながりを大切にしていける様にしたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	親しみの持てる関係が出来るよう見守ったり、お話をつなげたり、スタッフが心がけている お気に入りの場所の確保や自然に集れるようスタッフも雰囲気づくりに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退所された後もお見舞い、家族への状態確認の電話をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のお話や表情等で意向等を汲み取れるようにする。それぞれのスタッフの聞いた情報も考え合わせ入居者の思いや希望が把握できるよう心がけている	○	他の入居者との交流の苦手な方や長時間のレクリエーションが体力的に無理な方など無理しないよう声かけしたり本人が気まずくならないよう配慮している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はお話を聞き又は情報提供書等で生活環境や暮らし方等の把握に役立てている	○	各スタッフが得た情報を申し送り等に伝え、全員が統一した情報の把握に努めている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各入居者へのスタッフの声かけやレクリエーションへの参加の促し、食事等のシーンで表情のくもりや閉じこもりが続いていないか又はあった時はスタッフ間で申し送りして様子の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、本人の意向又はスタッフでの気付きノートの記録を考え合わせ介護計画に反映させている	○	管理者、ケアマネージャーのもとで職員一緒にケース会議を行っている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し案が出た場合、定期のケース会議にてスタッフ間で検討し、家族、本人に相談話しながら新たな計画作成に結びつけるよう心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々にチェック表を記録(排泄、食事、バイタル)個人台帳や気づきノートへの記録等で変化があれば申し送り時、口答にて情報共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望者の家族の宿泊と食事の提供 入居者との外出外泊による食事の変更時間等は随時対応させていただいている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々の訪問、同系列施設への行事参加、消防訓練、研修生受入れ等入居の方々へ事前説明のもと協力支援している	○	ボランティアの方々の訪問は少しずつ増やしていきたい 民生委員の方のアドバイスもいただけるようになっている (定期の運営推進会議の開催)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問マッサージを家族希望又は必要に応じて受けていらっしゃる方がいる		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期の運営推進会議の意見交換等行いながらお互いの情報把握に努めている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時又は契約時にかかりつけ医の有無や要望を聞いている 当ホームの協力病院では週1回の往診もして頂いているので医者との関係も築き易く状態変化時にもすぐに対応可能である	○	当協力病院以外のかかりつけ医の入居者の方もいらっしゃるが、その病院のドクターとも情報交換を行いながら協力体制を取っていける様に努めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	スタッフは入居者の状態変化に気をつけ、協力病院往診ドクターへの報告相談をする。家族とのお話もし、他科受診も受けられるよう支援していく		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師との24時間医療連携体制をとっており、オンコールで対応できるようになっている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフが定期でお見舞いをしている。看護師やドクターより状態をうかがえるようにしている。年1回の定期健診にてスタッフと病院との関係作りにも役立っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ドクター、本人、家族、スタッフの密な話し合いと情報方針の共有の重大さを認識している	○	重度化へ向けての方針やあり方等を勉強し、これからの対応につなげていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	管理者や看護師による急変時の勉強会をしているが、終末期等の取り組みはこれから勉強会等で行っていきたい	○	現在、そういう方はいないが今後、具体的に事例等を取り上げ勉強会をしていきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームから本人と家族に十分な説明と相手先への十分な情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐように心がけている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録個人情報の取扱いは外部より見えないよう配置しており、外よりの電話対応も心を配っている 言葉かけは穏やかに尊敬語に努めている プライバシーが守れるように本人の近くでの声かけに心がけている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動前は本人が選択の出来る余地を残すような声かけに努め、終わったら感謝の言葉をかけて、次につなげられるよう心がけている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の挨拶や天気の話等取り混ぜ、どんな1日であればよいか個人やグループでお話を伺って出来ることを支援している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容室の方々の訪問時に本人の意向を伝えている 手持ちの衣類等色合わせ等一緒にして楽しみを支援している	○ 髪の毛のカットは外部より来ていただいている 買いたい衣類は外出がてら買い物にいかれる方もいらっしゃる
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理する前や途中で味付けを伺ったり、味見してもらったりとアドバイスをいただく 後片付けの手伝いも協力していただいたり、声かけしたりしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコは本人とお話してドクターの判断も合わせ、量、時間を決めて差し上げている 生ものの差し入れはホームで預かり本人の希望により渡したり、こちらから定量を差し上げたりしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄はトイレ使用に努めている 下剤服用時は本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導に努めている 失敗して気持ちが落ち込まないようにリハビリパンツ、パット使用も行うこともある	○	排泄を促す為、入浴や腹部マッサージ、歩行強化等日々気をつけて行っている(排泄困難な方)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めてあるが、入浴前に意向を聞き、無理強いはしない 気が向いたらその時に入らせていただいている	○	入浴回数を多くしたい方もいらっしゃるの、希望に添うよう時間も聞いて入らせていただいている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動量を多くし、夕方食事以降は穏やかに夜を迎えられ安眠に向けて環境雰囲気作りに努めている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「若い時はよくしていたねー」「今までしてきたことだから出来るのよ」など声を聞きながら出来る事はスタッフの見守りと支援で長く続けていただくよう心がけている(楽しみや役割りを持っていただいている)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金をいくら持ち、買い物時に支払されている手元がないことを不安がられる方は、その都度、預かっている事を説明し、いつでも使える事を説明し安心納得していただいている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園が近隣へのドライブ、散歩等天候をみながら外出を支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や買い物等希望を個々に聞いたり、スタッフの声かけにて普段行った事のない場所へグループでのお出かけが出来るよう計画実行している	○	家族へ本人の希望を伝えたりし、又出かけられる機会をつくれる様に支援している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の安否の確認電話やお礼の電話、手紙等の投函は家族の了解のもといつでもしていただいている	○	定刻に電話を必ずしないと心配される入居者もいらっしゃるが通じるまで電話をかけていただくようしている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問出来るようになっており、その便宜を図っている 又施設内でゆっくりお話していただけるよう雰囲気作り心がけている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り、定期の会合で具体例を勉強しスタッフ間でケアに役立っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	早朝から日中の間の施錠はしておらず、夜間のみ防犯上施錠している(入口に2ステップセンサー)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は各スタッフでの声掛け合いによる見守り強化や夜間の定時の巡視にて安全に努めている	○	入居者の居場所や確認を常に行っている(目視や声かけ等)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持ち物は各自の状態により対応している ハサミ、裁縫道具等見守りにて貸しているが使用後は返していただき確認をしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故調査対策委員会で月1回検討会を開き、原因改善策を話し合っている 報告と共に再発防止の為、認識新たに防止に努めている	○	ヒヤリハット、事故報告書式をつくり、小さな事でも報告にまとめて出してもらい、回覧して事故防止に努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変は携わったスタッフだけの経験にとどめずスタッフ一同が共有できる情報として役に立てていく 初期対応の物品の準備、手当対応手順をマニュアル化し、周知に努めている	○	定期的に救急対応や手当での訓練を行っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練及び地域の方々の協力を得るべく話し合いを持つ事が出来、具体的な方法と協力体制が引き続き整えていけるよう努力していく	○	火災時等警報がなり、地域の方々への協力を求められる様に連携を取らせて頂いている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化時等は、家族への連絡、説明を行い情報提供に努めている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段にない表情、体調変化及び状態変化に気付いた時速やかなバイタルチェックを行い、管理者、看護師、ドクター、家族へ連絡報告を行い、指示を受けて対応に努めている	○	医療面で初期の変化と著しい変化が日常的に違うのに気付ける知識をスタッフ間で勉強していきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自服薬ファイルを作って、内容の確認が出来るようにしている 服薬時は担当スタッフが声出し確認を行っている	○	入居者各々の薬内容の把握と新しく加わる薬、止める薬は看護師からの報告を受けて、申し送りノートに記入し、配薬時スタッフ全員で確認している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や運動の声かけの支援をし、野菜食を多く取り入れたり工夫している 入居の方にも説明し、必要性を理解していただけるよう努めている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切なことを説明し実行していただいている 不完全な方へはスタッフの介助にて口腔清潔に努めている 義歯消毒も行っている	○	往診歯科との連携もあり、不具合時にはすぐ対応できる様にしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は同系列施設の管理栄養士のたてたものを使用している 水分チェックは月に1回行っている	○	入浴後などに清涼飲料(ポカリスエット等)を飲んでいただいている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会より情報や注意事項、努力事項等の実行に向けている 訪問の方々には外部からの感染を防ぐ為マスク、手指消毒を用意し、風邪症状の方は訪問を控えていただくようお願いしている 手すり消毒も毎日行っている	○	インフルエンザ予防接種は入所者、スタッフ全員受けている 入口玄関に消毒液、マスクを置いて他からの感染を防ぐように努めている
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ものはその日のうちに使いきれるよう購入し、早いうちに使用し残さないようにしている まな板、布巾、包丁はハイター消毒し、台所回りの清潔保持に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花々の置き換えや入口のインテリアの工夫をして和やかな気分になれるようスタッフ間で話し合い実行している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の小物の飾りや入居者の方々の手作りの物等を置き、楽しい話題になるように工夫している 外の眺めの素晴らしさも味わっていただき穏やかに過ごして頂いている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用のテーブルを囲みお話に花が咲くよう、又静かにホールソファで過ごせたり、入居の方々の意向も聞きながら場所作りをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や家族の写真等置いていただき居室を心地よい空間にさせていただくようスタッフも工夫している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気を取り入れ空気の入替えを午前中に行っている におい除去のオゾン効果のある器械の設置もある 温度調節も入居の方の希望に応じているが、外気温との差が少ないようにしている	○	温度湿度計を設置し、快適な状態で過して頂ける様に努めている(冷房28度、暖房25度以下の設定)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーバリアフリーである 手すりが共用部に取り付けであり床もクッション性があり、歩行に安全を施してある		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎日使用する箸、コップ類はご本人のものを使っただけようしたい		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出て外気に当たり、桜島を眺めながら話をしたり、洗濯物干しをしたり楽しんでいただいている 中庭に降り合のレクレーションも行っている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外泊、外出の帰所時「やっぱりここがいいわ」との声が聞けるとスタッフも喜びが湧く ホームでの日々の暮らしが自宅と変わらぬよう思われるべく、日々明るく和みのある支援をスタッフ一同心がけている